

2019年度 APIB (Assessment of Preterm Infants' Behavior : 早産児行動評価) トレーニングの開催・受講のご報告

日本ディベロップメンタルケア (DC) 研究会

顧問 仁志田 博司

会長 大城 昌平

私達、日本ディベロップメンタルケア (DC) 研究会は、小さく生まれた赤ちゃんのご家族の医療や支援に関わる看護師等の専門職者への教育支援などを通して、小さく生まれた赤ちゃんのご家族の成長発達と親子の関係性の育むディベロップメンタルケアの思想と理論、技術を発展させ、新生児医療の改善と子どもたちのご家族の未来を築く活動を推進していきます。この度、「ちいさな命 応援プロジェクト」(ユニ・チャーム様企画) によりのご寄付を活用して、Joy Brown 先生 (米国・コロラド大学) を講師に迎え、2019年度 APIB (Assessment of Preterm Infants' Behavior : 早産児行動評価) トレーニング (7月30日～8月7日) を開催いたしました。皆様のご支援に、心より感謝申し上げます。

APIB は、小さく生まれ赤ちゃんの神経行動の発達評価方法です。この評価方法を活用することで、赤ちゃんの発達状況がより良く把握でき、より適切な看護ケアや発達支援、育児支援が可能となります。今回の APIB トレーニングが、赤ちゃんのご家族のケアと支援、新生児医療の発展につながることでしょう。受講の方々の感謝の言葉と、トレーニングの成果をご報告申し上げます。

<佐藤裕美さん：愛仁会高槻病院 NICU 看護師長>

「ちいさな命応援プロジェクト」により頂いたご寄付により、7月31日から8月3日までの4日間、早産児行動評価 (APIB) 研修を受講させていただきました。この場をお借りして、皆様の支援に深く感謝申し上げます。

私は、NIDCAP を 2010 年から学び、看護科長として NICU に勤務しています。ケアの面から赤ちゃんの成長を支援することを大切に病棟スタッフとともに取り組んでいます。早く生まれた赤ちゃんは急速な成長を NICU で遂げていきます。赤ちゃんのより良い成長にとって、早産児の成長に必要なことを提供し、良くないと考えられることを可能な限り少なくすることへの取り組みとして、NIDCAP というプログラム、APIB という赤ちゃんの成長の評価を行う方法がアメリカで開発され、日本でも取り組みを行っています。

赤ちゃんの求めていることや必要なこと、また良くない事を理解するには、赤ちゃんの言葉である反応や行動を学ぶ必要があります。この APIB 研修では、発達の専門的な知識を土台に APIB の検査と評価の仕方を学びます。赤ちゃんの反応や行動を観察し、様子を判断しつつ、体に触れ、評価することが出来る、新生児の発達を支援する専門家の育成を目指して

います。赤ちゃんは、肌の色、呼吸の仕方、目の動き、体の動かし方、目覚め方、呼びかけに対する応答など多くのサインを出しています。どの赤ちゃんも、自分自身を落ち着かせ、休憩を求め、多くの調整を図りながら APIB の検者の質問に答え（対応し）ており、学習すればするほど赤ちゃんのもつ力に驚かされます。講師の Joy Brown 先生は常々、検査は対話、その人を理解するためのコミュニケーションと話されています。小さな命を理解するための学びは、赤ちゃん自身の安定した日常生活、ご家族がお子さんを理解し育児を行う手助けとなり、そして医療スタッフの教育指導により質の高い医療者の育成にもつなげていきたいと考えています。未来に向けて一步步 DC 研究会、APIB 研修生メンバーで取り組んでいきたいと思ひます。

<内海加奈子さん：東京都立墨東病院 NICU 助産師>

2011 年に NIDCAP プロフェッショナルとなり、「すべては小さく生まれた赤ちゃんとそのご家族のために」という心構えで、看護を実践してきました。時を経て NIDCAP の指導を担当するトレーナーになることを求められ、NIDCAP トレーナー研修の一環として、全国のトレーナー候補生とともに APIB を学習させていただきました。

今回のトレーニングでは、1 年前の APIB トレーニングから現在までの APIB 自己学習の内容と成果の報告を行い、実際に 4 症例の APIB 検査とスコアリングを実施しました。Joy 先生からは「検査手技の獲得は順調である、検査の進め方と対応の感覚は素晴らしい、スコアリングをだいたい理解できている」とコメントをいただきました。次回のトレーニングは信頼性評価（認定試験）となるため、症例を重ねて自己学習を継続することを課題として示されました。

APIB のスコアリング項目は全部で 287 あり、とても複雑なプログラムです。しかしその分、小さく生まれた赤ちゃんの発達状況や様子を詳しく、正しく理解することができます。APIB の知識は、話すことができない赤ちゃんの様子を知るための重要な観察の視点となります。この知識は根拠を踏まえた教育として活用することができるので、全国の医療従事者にセミナー等で広く伝達していきたいと思ひます。また、小さく生まれた赤ちゃんは環境やケアで赤ちゃんの様子が大きく左右されるため、それらの調整もケアの一環であることも合わせて伝えていきたいと考えています。それと同時に、赤ちゃんの発達状況を私たちが理解し、ご家族と共有することがとても大切です。ご家族の赤ちゃんに対する理解が進むことは、退院の支援はもとより、赤ちゃんの可能性を広げることにもつながると感じています

今回のトレーニングでご支援いただきました DC 研究会の皆様、施設の皆様、関わってくださったすべての皆様に深く感謝いたします。

<藤本智久さん：姫路赤十字病院 理学療法士>

今回、1期生のトレーニングは、7月31日から8月3日まで、姫路赤十字病院で行われました。初日には、サイトコンサルテーション（施設管理者との会議）も開催され、副院長や看護部長をはじめ関連部署の方々に参加いただき、研究会の大城昌平会長と Joy Browne 先生から NIDCAP Japan トレーニングセンターの構想や APIB について、説明していただきました。院内の方々にも NIDCAP と APIB、そしてトレーニングセンター設立に向けての取り組みについてご理解いただけたとうれしく思っています。

今回のトレーニングは、Joy 先生からよく言われていた「NBAS (Neonatal Behavioral Assessment Scale : 新生児行動評価) は赤ちゃんの評価（検査）だが、APIB は赤ちゃんとの対話である」ということを実感できるトレーニングでした。私は、2003年に NBAS の認定をいただいていたので、大まかな検査手順は、理解していたつもりでしたが、APIB では操作方法は似ていてもその手順や見る視点は全く違っており、なにか次の検査をするときには、いつも赤ちゃんをみて、答える準備ができてから検査を通じて問いかけ、そしてその答えを待つということ、そのためには、自分がしっかりとリラックスして落ち着いていないといけないこと、そしていつも赤ちゃんに集中していることなど、今までしているつもりでしっかりとできていなかったことが良く分かりました。

最終日には、私が APIB を実施し、スコアリングのトレーニングを実施しました。最終の Joy 先生からのフィードバックで、APIB の手技とスコアリングについて信頼性があり、しっかりと赤ちゃんとの対話が出来ていたと言っていただき、今回の APIB トレーニングでは、最初に APIB Professional の認定をいただくことができました。これも、今まで多くの経験や機会を与えていただいた DC 研究会の皆様と関係者の皆様、そして実際のトレーニングをしていただいた Joy Browne 先生、通訳のジョンソン伸子さん、そして快く検査をさせていただいた多くの赤ちゃんとそのご両親、院内の関係スタッフの皆様のおかげであると感謝しております。

今後は、入院中の早産児の介入で APIB を利用し、さらに NIDCAP と APIB をうまく使い分けて実施していきながら、赤ちゃんのご家族のサポートができるよう臨床で応用していきたいと考えています。



ご指導頂いた Joy 先生（右二人目）と、受講生（右から）佐藤さん、藤本さん、内海さん

<大竹洋子さん：東京都立小児総合医療センター NICU 看護師>

看護学校卒業後、念願の小児科病棟に勤務することができ、大好きな子供とその家族との関わりは、看護師としての大きな成長にも繋がり、子供たちの頑張りは私の勇気にもなりました。そして、月日が流れ、新生児の病棟、いわゆる NICU に就くこととなり、小児看護の原点は、ここ NICU にあったことを確信しました。それは、赤ちゃんの力と家族の絆の強さであり、そこに関わることは、私の看護師として喜びにもなっています。さらに、NIDCAP を学ぶ機会を得たことで、赤ちゃんの行動から赤ちゃんのパワーを知ることとなり、看護師としての原動力になっています。2011 年 NIDCAP Professional の認定を経て、NIDCAP トレーナーを目指す中、APIB トレーニングは、私自身待望のトレーニングの始まりでもありました。APIB とは、早産児で生まれた赤ちゃんの健康な満期の生後一か月に相当する成長段階の行動を評価する検査のことをいいます。NIDCAP の行動観察では、赤ちゃんには実際には触れず、しぐさから評価します。そして、医療スタッフのみならず、ご両親も一緒にできるケアに繋がります。APIB は、成長した赤ちゃんの行動を、別のツールにより、実際に触れることで知ることになります。これまでたくさんの困難を乗り越えてきた赤ちゃんの新たな力を触れ合いの中で知ることになり、NIDCAP での学びが活かされると確信しています。トレーニングは始まったばかりですが、これまでの学びを元に、関わる

赤ちゃんとそのご両親に、赤ちゃんの未来を見据えたサポートに繋げることが出来るよう、ご支援いただきました皆様に心より感謝しつつ、日々研鑽していきます。

＜森口紀子さん：愛仁会高槻病院 GCU 看護科長＞

8月5-7日の3日間、高槻病院で開催されましたAPIBトレーニングに参加させていただきました。初日、トレーニングを前に、緊張で身の引き締まる思いをしていましたところ、トレーナーのJoy先生から、「赤ちゃんの行動を引き出す時に、自分の心の在りようが鏡となり赤ちゃんに影響する。赤ちゃんの前に立つ時、心を穏やかに落ち着かせるように」との言葉をいただきました。私たちが乱れた心で赤ちゃんに向き合うと、その心はその手に伝わり、乱れたハンドリング（手技）は、赤ちゃんの発達し続ける脳神経細胞に影響を与える可能性を示唆するものです。

NICUを卒業する前に、小さく早く生まれた赤ちゃんの多くは画像診断の検査を受けます。しかし医療技術がどんなに進んで、画像診断などで脳の構造はわかっても、微細な脳機能への影響まではわかりません。赤ちゃんの脳神経細胞は最初にたくさん作られ、その後の経験いかんによって、その神経回路は必要などころにたく早く情報を伝えられるように育っていきます。APIBでは、退院前の赤ちゃんへ、様々な問いかけを通して、赤ちゃんの可能性を探り、脳の機能を見極め、ご家族が赤ちゃんの強みと課題とすることを理解し、関わっていける道標をお伝えできるものです。

2009年から日本で本格始動したNIDCAPトレーニングですが、レベル1のNIDCAP professional認定までに2-3年、その後、レベル2のNIDCAPトレーナーになるためには、Trainers-in-Trainingの受講と共に、APIB認定が求められます。現在、NIDCAP JAPANは、その一歩手前まで辿り着きました。私たち日本ディベロップメンタルケア（DC）研究会のメンバーの思いは、日本人が日本語によるトレーニングを開催し、新生児医療に関わる多くの医療者が、NIDCAPが大切にしている赤ちゃんの個別性に着目した赤ちゃんの声（行動）に心を寄せ、こども達の脳機能があたたかい心を育めるよう支援できるような環境を作りあげていくことです。APIB認定には多くの経験と忍耐が求められますが、赤ちゃんの強みを引き出せる問いかけを正確に行えるようこれから研鑽してまいりたいと思います。

多くの皆様のご協力に感謝申し上げますと共に、今後ともあたたかいご支援のほどお願いいたします。



前列右からご指導頂いた Joy 先生と通訳のジョンソン伸子さん、後列右から受講生の森口さんと大竹さん

皆様のご支援に、重ねて深く感謝申し上げます。日本ディベロップメンタルケア（DC）研究会では、これからも小さく生まれた赤ちゃんとご家族の“あたたかな心を育む”ことを目標に、専門職者の教育支援を推進して参ります。皆様の引き続きのご支援をお願いいたします。